

JANU

25

June 2012

【ジャヌー】 The Japan Association of National Universities

国立大学協会情報誌

Quarterly Report

Opinion

野村萬斎

狂言師

内なる変革

【特集】 有機的連携で未来を拓く

支部通信

発見！ 国立大学

— MUSEUM&CAMPUS —

今、学生は！

静岡大学 松浦みな美

続けることが強さの秘訣

女子相撲で世界を目指す

全国86大学が、地域と連携して、
地域振興の中核拠点となる

国立大学に
しかできない
教育と人材の育成

有機的連携で 未来を拓く

積極的に国際社会と交流し
国際貢献活動を推進する

私たち国立大学は、日本の知の拠点として、優れた人材の育成や基礎・先端研究の推進、地域への貢献といった「公共的役割」を担い、我が国と人類社会の持続的発展に寄与してきました。しかし、今日の社会には、これまでのやり方では解決できない新たな多くの課題が生まれています。

国立大学は、世界中の誰もが願う、安全で安定した新たな社会構造の構築のために、個々の個性と特色を発揮しながらも、設置形態を超えて大学や大学共同利用機関と連携して総力を結集し、四つの使命を果たすことを約束します。

世界が直面する
課題克服のための
研究の深化

【特集】有機的連携で未来を拓く

内なる変革

全国に86ある国立大学は、日本の知識基盤として、社会の発展のための中核的役割を担ってきました。しかし、急速にグローバル化し、複雑化する現代社会では、従来と違う、科学知識と社会文化知の融合が求められています。こうした社会的要請に応えるためには、従来の枠組みを超えた、新たな知の体系が必要です。今号の特集では、学部、大学院研究科の共同設置や組織の改編、大学間の連携、抜本的な組織の見直しなど、社会に求められている人材を育成する、革新的取り組みを紹介します。



大学の垣根を超える

得意分野をさらに生かし、
教育・研究機能を強化する共同教育課程を設置

国立大学では、個々の大学だけではなく、
共同で新たな取り組みを行っています。二つの大学が互いの強みを
生かして設置した、共同教育課程を紹介します。

遠隔地の大学同士で獣医学を共に学ぶ

岩手大学×東京農工大学 北海道大学×帯広畜産大学
山口大学×鹿児島大学

食の安全や感染症に対する関心の高まり、ペットの高齢化などを背景に、高度な技術を持つ獣医師の需要が増加しています。こうした現状を受けて、国立大学は、共同で獣医学課程を設置する取り組みを始めています。

2012年度から、岩手大学農学部と東京農工大学農学部は共同獣医学科を、北海道大学と帯広畜産大学は共同獣医学課程を、また山口大学と鹿児島大学は共同獣医学部をそれぞれ設立しました。

例えば、産業動物獣医療の教育に実績のある岩手大学と、伴侶動物獣医療の教育で実績を持つ東京農工大学は、それぞれの強みを生かし、アジアの獣医療をけん引できる人材の育成を目指します。岩

手大学では、畜産の生産現場から食品の安全性を管理する動物医学食品安全教育研究センターを、東京農工大学では、口蹄疫などの重要家畜感染症の撲滅を目指す国際家畜感染症防疫研究教育センターを有するなど、学生はいずれの分野でも、最先端の研究を学べます。

共同獣医学科の設立により、両大学の教員・施設の共有・共用が可能になり、学生は、互いの大学で充実した演習を受けられ、それぞれの得意とする分野を活用できる他、5年次の研究室配属では、両大学から研究室を選ぶことができます。また、インターネットを利用した遠隔講義システムも導入しています。なお、卒業証書は、両大学連名で授与されます。



東京農工大学農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センターでは、口蹄疫などの重要家畜感染症を中心に、産業動物を始め、さまざまな動物の感染症の研究を行っている。写真は、最先端の研究を行う大学院生と職員（下）



岩手大学：<http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/cvet/cvet.html>
東京農工大学：<http://www.tuat.ac.jp/pickup/20110829175755/index.html>
北海道大学、帯広畜産大学：<http://www.vetmed.hokudai.ac.jp/kyoudou/index.html>
山口大学：<http://www.vet.yamaguchi-u.ac.jp/>
鹿児島大学：<http://www.vet.kagoshima-u.ac.jp/>

学校教育の諸問題に対応した 教育研究を展開

愛知教育大学×静岡大学

国立大学間で初めての共同大学院を設置し、教員養成の高度化に取り組んでいる大学もあります。

愛知教育大学と静岡大学は、後期3年博士課程として、「共同教科開発学専攻」を2012年度に開設しました。学校教育が抱える諸課題を深く研究する「教科開発学」

は、教育環境学及び、教科専門と教科教育を融合した教科内容に関する教科学とを体系化した、新たな研究分野です。

同専攻では、教員養成に力を入れてきた、中部地方の教育学部で、2番目の規模の両大学の実績を生かし、「教科開発学」を修得した大学教員の養成を目指します。

学生は、本籍を置く大学の主指導教員と、両大学から少なくとも1人以上の副指導教員の計3人以上の教員から、指導を受けることができます。

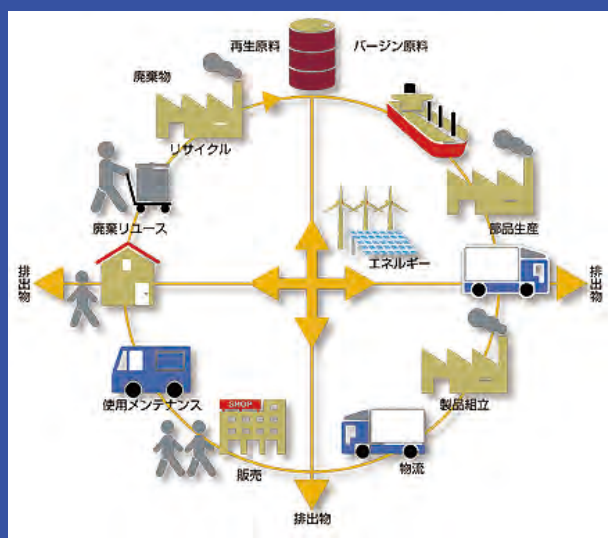
愛知教育大学・静岡大学教育学研究科共同教科開発学専攻：
<http://subdev.ed.shizuoka.ac.jp/>

遠隔授業システムによって、キャンパスが離れていても双方向コミュニケーションが可能



愛知教育大学・静岡大学教育学研究科共同教科開発学専攻：
<http://subdev.ed.shizuoka.ac.jp/>

ライフサイクルデザインの概念図



秋田大学：<http://www.lcd.eng.akita-u.ac.jp/>

秋田県立大学：<http://www.akita-pu.jp/daigakuin/lcd/>

国立大学と公立大学とで 循環型社会を担う人材を育成 秋田大学×秋田県立大学

国立大学と公立大学が連携する事例もあります。

秋田大学大学院工学資源学研究所と秋田県立大学大学院システム科学技術研究科は、2012年度、博士前期課程として、「共同ライフサイクルデザイン工学専攻」を開設しました。

「ライフサイクルデザイン工学」とは、資源の採掘、製品の企画・設計から廃棄・リサイクルに至る

まで、ライフサイクル全体を考慮する工学です。資源・環境・リサイクルに関する研究分野に強みを有する秋田大学と、経営工学研究分野に強みを有する秋田県立大学の特色を生かし、資源・環境工学から経営工学にまで及ぶ広範囲の知識を基盤とし、現在の産業社会が直面している環境問題の解決に寄与できる人材を育成します。

組織を改変する

社会のニーズに対応できる
卓越した人材を育てる

急速なスピードで変化する社会に応じて、国立大学も大胆にその形を変えています。ここでは、組織を再編成した大学を「地域社会」、「国際社会」、「専門分野」、「高度医療」の四つの観点から、紹介します。

地域のリーダーを育成

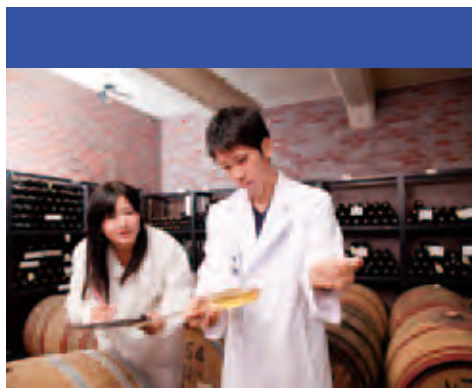
山梨大学 北海道教育大学

全国各地に所在する国立大学は、地域に根差し、地域振興を主導することが期待されます。

山梨大学では、以前から地域の要請があった農学系学部「生命環境学部」を2012年度に創設しました。同学部は、「自然と共生可能な豊かな地域社会の創生」を基本理念とし、最先端のバイオサイエンスとその応用を学ぶ「生命工

学科」、ワイン科学を含む食物科学や農学の専門知識と技術を学ぶ「地域食物科学科」、自然環境の調査・解析・評価及び管理能力を育成する「環境科学科」、社会のマネジメントについての専門知識を学ぶ「地域社会システム学科」から構成されています。同学部では、実験や実習、演習系の授業を重視し、高い実践力と課題解決力を育みます。

また、北海道教育大学でも、国際感覚を持って地域課題に取り組む「国際地域学部」と、芸術・スポーツの専門性を住民の健康づくり・生きがいの創出・まちづくりを生かす「芸術・スポーツ文化学部」の設置を構想中です。



山梨大学でワイン科学を研究する学生
山梨大学：<http://www.les.yamanashi.ac.jp/>
北海道教育大学：<http://www.hokkyodai.ac.jp/>

国際社会に羽ばたく

東京外国語大学 電気通信大学 岡山大学

グローバル化が急速に進むにしたがい、国立大学が国際社会で活躍できる人材を育成することは急務です。

東京外国語大学は、2012年度より、「外国語学部」を「言語文化学部」と「国際社会学部」に改編しました。3地域と1言語を新たな専門として加え、学術専門分野に応じ、言語間・文化間の媒介者となる「国際教養人」、及び国際ビジネスの場で活躍する「国際職業人」を育成します。

電気通信大学でも、2010年度に、コミュニケーションにかかわる科学技術を融合し、体系化した「総合コミュニケーション科学」という新たな概念に基づき、「情報理工学部」を発足させました。

また岡山大学大学院も、2012年度に「環境生命科学研究科」を設置しました。

岡山大学大学院「環境生命科学研究科」では、国際的な視野と高度な専門能力で環境・食料問題を解決できる人材を育成。写真は、廃棄物問題を抱えるスリランカの街の様子

東京外国語大学：<http://www.tufs.ac.jp/education/>
電気通信大学：<http://www.uec.ac.jp/department/ie/>
岡山大学：<http://www.gels.okayama-u.ac.jp/>



専門分野を究める

名古屋大学 横浜国立大学

国立大学は、社会の発展に貢献する技術者・研究者を育成する役割を担っています。

名古屋大学は、2012年度から、「大学院創薬科学研究科」を設置し、「基盤創薬学専攻」を開設しました。これまでの天然物化学や有機合成化学及び生命科学分野での実績を生かし、医薬品の設計合成や、疾病や薬効の解析に役立つ基礎技術の開発において、先端的な研究を推進します。同専攻では、薬学部のみならず、理学部、工学部、農学部などの出身の学生も広く受け入れ、薬学固有の科目に加え、多分野にまたがって研究基盤を習得できる創薬基礎・専門科目を開講しています。

横浜国立大学でも、2011年度に、従来の工学部を改編し、「理工学部」を設置しました。従来工学部にあった分野の他に、地球生態学教育プログラムや数理科学教育プログラムが加わりました。

信州大学も、2012年度より、大学院に理学、工学、繊維学分野から成る、「理工学系研究科」を設置しました。科学・技術の発展のみならず、地球環境問題にも取り組む研究協力体制を整え、高度な科学・技術を駆使し、自然と共存する社会基盤を築く人材を育成します。

信州大学



横浜国立大学では、機械設計の授業の一環として、電気自動車の構想・設計・製作・走行を行う

名古屋大学：<http://www.ps.nagoya-u.ac.jp/>
横浜国立大学：<http://www.es.ynu.ac.jp/>
信州大学：<http://www.shinshu-u.ac.jp/graduate/research/technology/index.html>

これからの高度医療を担う

広島大学 金沢大学

21世紀の少子・高齢社会の医療においては、各分野の専門スタッフが結束し、研究・治療に当たることが求められます。今後の高度医療に不可欠な、他分野と連携して患者の治療に当たるチーム医療を担う人材を育成するために、広島大学は、2012年度、大学院に「医歯薬保健学研究科」を設置しました。同大学は、医学、歯学、薬学、保健学、原爆放射線医科学

研究所（原医研）、大学病院と医療系すべての教育・研究・臨床の分野を有しています。この特徴を最大限に生かし、コースワークを充実させたカリキュラムを実践し、異分野融合研究の基盤を作ります。金沢大学でも大学院に、学問領域を超えた質の高い医療人・研究者の養成を目指し、2012年度に「医学系研究科」を「医薬保健学総合研究科」に改組しました。

広島大学：<http://www.hiroshima-u.ac.jp/news/show/id/12348>
金沢大学：http://www.kanazawa-u.ac.jp/graduate_school/index.html

子どもの心の専門家を育成 5大学連合大学院の挑戦

大阪大学×金沢大学×浜松医科大学×千葉大学×福井大学
課題解決に向けて、複数の大学が協働で教育研究機関を設置する取り組みが行われています。大阪大学と金沢大学、浜松医科大学は、2009年度に連合大学院「連合小児発達学研究科」を設置しました。従来は主に社会心理学の研究対象であった、子どもの心の問題を医科学的見地から研究します。2012年度からは、千葉大学、福井大学も参加し、5大学による連合大学院となりました。既存の領域を超えた新研究領域「子どもの

心と脳発達学」の研究者、子どもの心に携わる指導者や高度専門家を、協働で育成します。



5大学が密接なネットワークを築き、連合大学院を形成
<http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/>

従来の枠組みを壊す

分野横断型の組織をつくり、
複雑化する社会をリード

現在、社会のグローバル化・複雑化によって、
新領域の研究や総合的視点を持つ人材が求められています。
新たな課題に対応すべく、大学の組織編成も変化しています。

「学群・学類・学系」で、 文系と理系の壁を超える

福島大学

2004年10月から、福島大学は従来の「学部・学科」から「学群・学類・学系」制度を導入しました。この組織改編により、文理融合の発想と知識を生かした教育研究活動が行われ、東日本大震災対応では積極的な地域支援活動へと展開しました。発達心理学・教育心理学の人文系と、実験心理学・精神生理学の理工系の教員が協働で作成した「子どもたちのためのストレス対処リーフレット」や、地域経済専門の教員と理工系の教員が中心となり、その場で放射線の数値を測定しながら地元食材を販売する「復興マルシェ」の開催が一例です。これら分野横断型のプロジェクトが、「うつくしまふくしま未来支援センター」の設立につながり、同大学は組織的に震災復興に携わっています。地元住民の信頼を得ている、地方の国立大学だからこそできる取り組みです。更に同大学では、災害時や環境問題に貢献する、微風で発電する風車の研究なども行っています。



「子どもたちのためのストレス対処リーフレット」(左)と、農産物の販売や放射線測定検査のデモンストレーションを行った「復興マルシェ」(下)



<http://www.fukushima-u.ac.jp/new/13-kenkyu/index.html>

「学府・研究院」で 総合的視点を持つ 人材を育てる

九州大学

九州大学では2000年度から、大学院に学府・研究院制度を導入し、教育上の目的と研究上の目的のいずれにも柔軟に対応できる組織編成としました。同制度導入後、今日的課題に対応した研究組織が多数設置されました。また、教育組織では、生命科学と情報科学・工学との融合を図る「システム生命科学府」、異なる専門分野から知の統合と創造を図る「統合新領域学府」を設置しました。この全国初の取り組みによって、研究院の枠を超え、社会のニーズに迅速かつ柔軟に対応することが可能になりました。

http://www.kyushu-u.ac.jp/university/data/gaiyou23jpn/H23gaiyo_P10.pdf <http://www.kyushu-u.ac.jp/university/change/gakufu/index.php>

入学から卒業までの流れ



「学類」という幅広い枠組みで入学。基礎を学んでから、専門領域を決める「経過選択制」や、複眼で学ぶ「主専攻・副専攻制」などにより、学びを広げ、一人ひとりを成長させる

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/reorganization>

「3学域・16学類」で 学問の基礎を固める

金沢大学

金沢大学は2008年度、従来の8学部・25学科を、3学域・16学類に改組しました。学域とは従来の学部を学問領域ごとに大きく包括した組織で、学類とは従来の学科を束ねた組織です。選択自由度の高い学域学類制の導入により、現代社会の課題に対応できる応用力と創造力に富む人材養成の方向付けができました。同時に、教員も従来の学部の枠を超えて幅広い分野での教育を実施するとともに、横断的な研究を展開しています。

Opinion

野村萬斎

狂言師として、狂言はもちろん、現代劇でも演者としてや演出として活躍されている野村萬斎さん。古典芸能の伝統を継承しながら、新たな世界を切り開いている萬斎さんに、その心構えを伺いました。



教養を持つて物事に臨めば、
より幅広い
豊かな世界が見えてくる

芸術の幅広さを実感した
東京藝術大学での経験

幅広い視野や経験の上に立って、
狂言に取り組みたいと思っていたの
で、東京藝術大学に進学しました。

大学では、初めて同世代のアーテ
ィストの卵たちと向き合え、そのこ
とは僕の財産になっています。更に、
芸術の幅の広さを実感しましたし、
芸術を多角的にとらえる意識が持て
たことは素晴らしい経験でした。

「教養」を身につけることで
ものの見方が広がる

僕は、教養とは、多面的に物事を
見て、それらを分化するのではなく、
束ねる考え方だと思っています。大
学では、専門的な基礎知識と同時に、
教養を身につけられるシステムがあ
るといいのではないのでしょうか。

東京藝術大学では、非常勤講師と
して狂言を教えていましたが、狂言
のコース以外の学生もいますので、
「芸術とはなんぞや」ということを、
狂言を題材に皆で考える授業をして
いました。狂言の「構え」を例にあ
げて、「そもそも立つとはどういう

撮影／鈴木理策



アイデンティティーを持つこと そこから自信と個性が生まれる

意味だ」ということについて、それぞれの専門に基づいて、ディスカッションさせるような授業です。こうしたことを通して、自分の専門分野をより立体的に、広く考えられるようになるのではないかと思います。

自分の専門や自分自身を客観視する発想を持つことは、他ジャンルと競争して生き残っていくために、必要なのではないのでしょうか。僕自身、そのように考えて狂言に取り組んできました。初めてイギリスに留学した時、狂言を教養として身につけていたからこそ、自分の軸がぶれることなく、他ジャンルを見ることができたと思うのです。またこのことは、今、なぜ狂言をやらなければならぬのかを、多角的に考えることにつながっています。

大学というものは、ある程度専門的なことを学ぶところですが、一方で、それを広く平らに見る力も両立して学ばなければならないと思います。いい先生がいて、その先生の胸を借りて実地的にももの考え方を学び、また、先生がどのように教養を持つて、自分の専門分野をとらえているのかを学ぶところだと考えます。以前、東

京大学で表象文化論という講義をしたのですが、その際に東京大学の先生方の「知」と交われたことは、僕のような現場の人間にとって、すてきな出会いでした。お陰で、ものの考え方が広くなりました。

公共性の本来のあり方とは 本質的な価値を求めること

国立大学は公共的な役割を担っています。公共性のあり方について、劇場で考えると、公共劇場では民間とは違い、価値があるとされるものをやり続けなければいけないと思います。長いタームで物事を考えることが、公共性のあり方の一つでしょう。即時性や即物性とは違う、時間に流されずに本質的なことを地道にやるということが、キーワードになるのではないのでしょうか。更に、日本や地域のアイデンティティーとは何かを考え続けることも必要です。

大学で考えた場合、国立大学というのは、日本という国を背負う大学でしょうし、東京藝術大学であれば、日本の芸術教育の総本山であるべきだと思います。そのためには、民間に負けないような話題づくりもしな

野村萬斎（のむら まんさい）

狂言師。1966年、東京都生まれ。野村万作（人間国宝）の長男。1989年、東京藝術大学音楽学部邦楽科能楽専攻卒業。3歳で初舞台を踏む。1994年、萬斎を襲名。同年、文化庁の芸術家在外研修制度でイギリスに留学。1年間ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーで学ぶ。2002年、「世田谷パブリックシアター」芸術監督に就任。狂言の普及に努める一方、狂言の技術を駆使した演出を手掛けるなど、現代劇や映画、テレビやCMなど、幅広い活動が続けている。

ければならないでしょう。

地域に貢献するためには
「時間」と「場」をつまく使う

現在、世田谷パブリックシアターという公共劇場で芸術監督をしていますが、いかに地域に還元するかを考えています。もちろん、お客さんが多く入るといような、目に見える還元が多いといいのですが、目に見えないものもあると思います。

例えば、ここでつくった『まちがいの狂言』という僕の作品は、日本だけでなく、ヨーロッパやアメリカでも上演しています。以前、世田谷区在住の方が、「世田谷には、野球チームもサッカーチームもないけれど、この劇場があることを誇りに思う。世田谷でつくった作品を世界に発信することで、日本のアイデンティティーの成果を見せられるということに、胸を張りたい」と言ってくさって、感激しました。

もちろん、地域によつては、どこまでそういうことができるか、難しいところもあるかもしれませんが。しかし、公共というのは、「場」と「時間」を持てるわけですから、そこをうまく利用することを考えなければならぬでしょう。そのためには、情報を上手に発信して、地域の人に知ってもらうことです。使ってもらわない限り、無駄遣いになりかねな

いのですから、地域の方にとつて魅力的で、意義を感じる時間や場を提供することが重要だと思っています。一方で、地域に密着した活動は大事です。ドメスティックな部分だけでは限界があるので、他県と交流するなど、渉外的な部分も考えなくてはいいけないと感じています。

戦うことを放棄しない
そこから個性が生まれる

現代の若者は内向きだと言われていますが、これは、どれだけ自分に日本人としてのアイデンティティーを感じているかということではないでしょうか。日本人として戦いたい、どこかで力比べしてやろうという気持ちがないと、外には出ていけないのかなと思います。

外に目を向けるには、自信をつけ



「立つ」という行為一つをとっても、他の分野に目を向けることで別の角度から考えることができるようになる

ることが必要だと思っています。自信をつけることは、個性を持つことにつながるかもしれませんが。個性というのは、他者に対する自分のアイデンティティーの一つの表現ですから、「私は生きていく」という実感を持つことが大事だと思っています。

しかし、個性の出し方を教えないで個性を出せというのは無理な話ですから、個性を出す方法論を教えられたいですね。

実は、僕は「草食系男子」という言葉が好きではありません。もちろん、誰に対しても闘争心を持つとは言いませんが、やはりある程度、傷つけられたり傷つけたりということは、自分も含めての戦いであるわけですから、あまりそういうことから逃げ回っているのは、生きていけないぞって言いたいですね。

発見！国立大学

MUSEUM & CAMPUS

国立大学には、美術館や博物館、一般の人も気軽に利用できるスポットなどがたくさんあります。今号では、各支部おすすめの場所を紹介します。



インターネット上の情報博物館 「北海道メディカルミュージアム」 旭川医科大学（北海道支部）



旭川医科大学では、地域の人々を対象に、病氣治療や健康に関する情報をインターネット上で提供しています。同大学では、このサービスを情報の博物館とし、「北海道メディカルミュージアム」と名付けました。年に約4回配信される公開型講座では、道内各地をインターネットのテレビ会議システムで結び、遠隔地の聴講者でも、講演者に直接質問することが出来ます。この取り組みは、大学と大学病院、自治体などが共同で行う社会貢献事業で、同大学の理念である「地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する」ことを目指しています。

聴講者の質
疑に答える
講演者



大正時代の趣を伝える 外国人教師の宿舎 弘前大学（東北支部）

弘前大学の旧制弘前高等学校外国人教師館は、1925年に旧官立弘前高等学校の外国人教師宿舎として建てられました。

その後、教職員宿舎として使われていましたが、道路拡張に伴い、取り壊される予定になっていました。しかし、唯一残っている旧制弘前高等学校の建物であることや、弘前市における大正時代の数少ない建物の一つであることから、移築への強い要望があり、2004年に文京町キャンパスに移築されました。

木造2階建ての端正な洋風住宅の教師館は、現在、国の登録有形文化財となっています。また、弘前大学



旧制弘前高等学校外国人教師館

は、文京町キャンパス全体を博物館として開放し、子どもたちに科学の面白さを伝える「弘前大学サイエンスパーク」を実施しています。外国人教師館は、その総合案内所の役割も果たしています。



理科の魅力伝える教員を育成 理科教員高度支援センター 東京学芸大学（東京支部）

理科の魅力子どもたちに伝えられる教員を育成するために、2010年に設立されたのが、東京学芸大学理科教員高度支援センター（ASCeST）です。

同センターでは、理科を専門としない小学校教員が基礎技術を習得できる研修や、中・高等学校の理科教員が最先端の科学に触れること

のできる研修などを実施しています。

2011年度には、航空機での無重量実験の研修を行いました。理科学習には、机上の学習だけでは分からないことがあることを、まず、教員に実感してもらうことがねらいです。研修参加者は、機内で撮影した映像を授業で活用できます。



無重量状態になった機内で、実験をする研修参加者たち

学術研究の歴史的な資料を公開！ 新潟大学（関東・甲信越支部）



新潟大学旭町学術資料展示館

新潟大学は、長い年月の間に蓄積された学術資料を学内外に公開するために、2001年に新潟大学旭町学術資料展示館（創設時は新潟大学旭町学術資料展示室。通称は、あさひまち展

示館）を開館しました。

展示館は旭町キャンパスにあり、1929年の建築当初から、旧制新潟師範学校の児童博物館などとして利用されてきました。新潟市に現存する、昭和初期の鉄筋コンクリート造りの建物としては最古級で、国の登録有形文化財となっています。

同館では、新潟の原始・古代に関する資料や美術品など、同大学の学術研究の歴史を伝える資料を公開する常設展示の他、年3回程度の企画展やイベントも開催しています。



ハーンの著作「耳なし芳一」の原点といわれる『臥遊奇談』（1782年）

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の旧蔵書

富山大学（東海・北陸支部）

富山大学附属図書館は、『怪談』などの作品で知られる、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の蔵書を集めた「ヘルン文庫」を保存しています。名称は、ハーンが当時「ヘルンさん」と呼ばれていたことに由来します。

同文庫は、旧制富山高等学校の開校時に、ハーンの蔵書を同校に譲り受けたという初代校長の熱意にちなみ、北前船交易で財をなした馬場家のはる氏がハーンの遺族から購入し、寄贈したものです。

「ヘルン文庫」は、一般に公開されており、ウェブ上でも一部を閲覧できます。

欧州の美術品や教授の作品を展示 京都工芸繊維大学（近畿支部）



京都工芸繊維大学美術工芸資料館は、前身校の一つである京都高等工芸学校教授の浅井忠、武田五一らが、図案料の教材にと欧州から持ち帰ったポスター、陶磁器、彫刻、染織品などを所蔵品の基礎としています。これらの他に、ロートレックやミュシャのポスターや、村野藤吾の建築図面などもあります。

また、浅井が東宮御所（現迎賓館赤坂離宮）の壁掛けの原画として制作した『武士山狩図』とその習作は、制作過程をたどることができる貴重な資料です。

鳴門の渦潮を描いた 広重の最晩年作

鳴門教育大学（中国・四国支部）



広重の「雪月花三部作」の「花」に当たる作品『阿波鳴門之風景』。鳴門海峡の渦潮を花に見立てている

鳴門教育大学附属図書館は2011年、創立30周年記念展示「描かれた近世阿波の風景」で、浮世絵『阿波鳴門之風景』を中心に、近世阿波に関する資料の展示・解説を行いました。『阿波鳴門之風景』は、初代歌川広重の最晩年作で、同大学が創立30周年記念事業の一環として購入しました。

『阿波鳴門之風景』は、徳島県民に名前はよく知られていましたが、これまで実物を見られる機会が少なかったため、来場者から好評を博しました。

附属図書館では、今後も所蔵資料や絵図などの公開を、開放事業の一環として行っていく予定です。

教育研究の成果を発信する スポーツ文化ギャラリー

鹿屋体育大学（九州支部）



鹿屋体育大学は、2011年に開学30周年を記念して、同大学の教育・研究が社会に果たしてきた役割と成果を、広く社会に発信するスポーツ文化ギャラリー「NIFS GALLERY」（ニフス ギャラリー）を開設しました。同ギャラリーは、鹿屋体育大学の英文表記（National Institute of Fitness and Sports in KANOKA）の頭文字を取り、命名されました。

同大学にゆかりのあるオリンピック選手のメダルやユニフォーム、同大学の地域貢献の紹介パネルなどを展示し、中高生や市民に公開しています。



鹿屋体育大学・北川教授（体操）の獲得メダルや、卒業生の津曲選手（バレーボール）のユニフォームなどの展示品

今、学生は！

続けることが強さの秘訣 女子相撲で世界を目指す

静岡大学 松浦みな美さん

静岡大学教育学部の松浦みな美さんは、2011年にアジア女子相撲選手権大会の軽量級で見事優勝し、この他に、東日本学生女子相撲選手権大会などでも優勝しています。松浦さんに、女子相撲の魅力について聞きました。

体格差がハンデにならず、
一瞬で勝負が決まるところが魅力

――相撲を始めたきっかけを教えてください――

母の勧めで小学4年生の時に、相撲の大会に出たのが始まりです。5年生になってから、地元の「やいづ少年相撲クラブ」に入り、本格的に練習を始めました。現在も同じクラブで練習を続けています。女子相撲はまだあまり知られていないのですが、ルールや技は男子

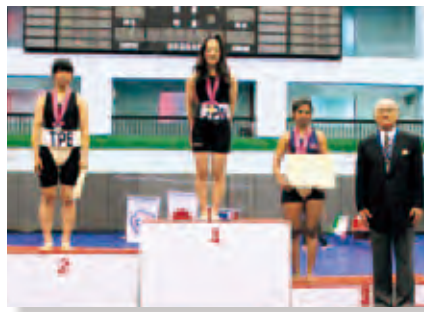
と同じで、違うのは服装くらいです。大きな大会が年間で4回ほどあり、一つの大会に150人くらい参加します。最近は小学生の参加者も多く、競技人口が増えています。大相撲との違いは、男子・女子共に大会では体重によって階級が分かれているところですね。

相撲は体格差のある相手でも、バランスを崩せば、勝つことができます。もともと幼稚園の頃からレスリングをやっていたのですが、私は身長があまり高くないの



松浦 みな美

静岡大学教育学部 保健体育教育専修4年



2011年に台湾で開催された、アジア女子相撲選手権では、表彰台の頂点に立った

相撲のお陰で、ここ一番の勝負強さが身につきましたし、土俵の周りはすべて観客なので、度胸もつきました。これも、大会で優勝できたのも、ずっと練習を続けてきたからだと思います。続けることの大切さを実感しています。

二人で勝つとうれしさも二倍
姉妹で一緒に勝ちたい

――昨年のアジア女子相撲選手権大会では、見事優勝しましたね

4歳上の姉も相撲をやっており、国際大会で既に優勝していたので、私もずっと出たいと思っていました。だから、出場選手に選ばれた時は、本当にうれしかったです。

国際大会は初めてで、緊張もしましたが、のびのびできたと思います。

海外の選手と対戦したのも初め

で、体格差がハンデになるレスリングよりも、勝てる可能性があるかもしれないと思いました。また、寝技などがあり、長期戦となるレスリングに比べ、相撲は相手を倒せば終わりです。一瞬で勝負が決まるところが、私には合っているようです。練習では、いろいろな選手を相手に試合運びについて試行錯誤しながら、数多くの番数（相撲の取組の数）をこなせることも魅力です。

まわしをつけての練習では、作法も本格的に行う。写真は、取組前に行う「塵手水」





まわしをつかんで、相手を倒す
タイミングを計る



練習には幅広い年代の男女が参加する。
小学生とストレッチをする松浦さん



てで、柔道経験者の選手が多かったこともあり、相撲にはない、予想外の動きに驚くことがあります。また、外国人選手は、体の大きな人が多いのですが、姉が大会に出場した時の写真を見て、体格差があることは知っていましたから、それほど圧倒されることはなかったです。

——普段の練習は、どのように行っていますか

夏は週3回、冬は週2回、夕方に2時間ほど練習しています。夏は四股を踏んでから、すり足、筋トレをして、相撲をとります。その後にぶつかり合いこをして、ストレッチをして終わります。冬は筋トレが中心です。

練習は、幼稚園くらいの小さな子から、私よりも年上の人まで、さまざまな年代の人が参加し、男女一緒に行います。男子と練習することで、より鍛えられていると思います。

いつも練習で意識するのは、自分から動いて、自分のペースで相撲をとるということです。相手に先に動かれると、どうしても相手のペースになつてしましますから。

試合前は、対戦相手の試合のビデオなどを見ながら、作戦を立てたり、イメージトレーニングをしたりします。

姉は階級が違うのですが、アドバイスをくれるし、お互いにいい刺激になっています。試合では、

二人で勝つと喜びも二倍、負けると悔しさも二倍。ですから、二人で一緒に勝ちたいね、といつも話しています。

——今後の目標を教えてください

昨年優勝できなかった大会では、次回こそ優勝を目指したいです。また、世界中の国が参加する世界選手権は、各階級の体重の上限が日本の大会よりも上がってしまいます。ですから、国内でいえば、一つ上の階級の人たちと戦うことになります。私よりも、ずっと体の大きい選手が参加しますから、厳しい勝負になると思いますが、可能ならいつか、出場したいです。

大学では、保健体育教育を学んでいます。相撲と学業の両立は、大変な時もありますが、相撲は自分が好きでやっていることなので、やめたいとは思ったことはありません。卒業後は、中学校の体育教師になりたいと思っています。今年から、中学校の保健体育の授業で武道が必修になりましたが、安全性を確保した上で、日本の伝統的な競技に触れられる機会があるのは、いいことだと思います。

相撲は相手がいなくてできません。また、礼に始まって礼に終わる競技ですので、相手を尊重する気持ちと礼儀正しさが身につきます。ですから、自分が教師になった時に、生徒に相撲を教えられる機会があったら、うれしいです。

JANU Quarterly Report vol.25 June 2012

編集・発行／一般社団法人 国立大学協会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

TEL:03-4212-3506

表紙：狂言師

野村萬斎

撮影：東京藝術大学 美術学部准教授

鈴木理策



一般社団法人 国立大学協会

The Japan Association of National Universities

<http://www.janu.jp/>